

爲浮者轉注也。後人諧聲作册作府。非說文俛病之疝字。玉篇廣韻混訓腫字。訓俛病字爲一者非是。
 略。○中舊之勇誤毛。勇山田本。昌平本。那波本同。曲直瀬本亦誤毛。曾今依玉篇腫字音改。下總本波留
 上有俗云二字。醫心方腫同訓。○中今本玉篇疝部不載腫字。肉部有腫字。引說文云癰也。不載此所
 引文。按腫卽俗腫字。變肉从疝者。爾雅釋木注。癰腫無枝條。釋文云。腫本或作腫是也。此从疝者。蓋源
 君從俗寫。恐非顧氏之舊。又有从疝從童瘡字。卽瘡字。而瘡或省作瘡。見集韻。二字遂混同。釋名。腫鍾
 也。寒熱氣所鍾聚也。

〔伊呂波字類抄〕波瘡腫亦作瘡

〔增補下學集〕支體浮腫

〔倭訓栞〕中編二十六むくみ。浮腫をいへり。蠢身の義にや。

〔小右記〕長和五年二月八日癸未。於南流邊奉幣春日御社。御幣付皇后宮使師通朝臣奉幣後讀經念
 誦。攝政以大外記文義朝臣被命云。開關事。今日以後無吉日。昨日供奉後定難堪歟。雖然相扶必可被
 參行者令申亂心地極惱之上。終日罷行。右。上。兩。足。裏。腫。不能著襪之由了。

〔吾妻鏡〕十二建久三年二月四日丁未。大夫尉廣元爲使節上洛。是自去年窮冬之比。太上法皇御不豫。
 玉體令腫。御云云。依此御事也。

〔徒然草〕上唐橋中將といふ人の子に。行雅僧都とて教相の人の師する僧有けり。氣のあがる病あ
 りて。年のやうくたくる程に。鼻の中ふたがりて。いきも出がたかりければ。様々につくろひけ
 れど。煩らはしく成りて。目眉額なども腫まどひて。打おほひければ。物も見えず。二の舞の面のや
 うに見えけるが。たゞおそろしく鬼のかほに成りて。目はいたゞきの方につき。額のほどはなに
 成などして。後は坊のうちの人にもみえずこもりゐて。年久しくありて。猶煩らはしく成りて。死
 にけり。かゝる病もある事にこそ有けれ。